

物理談話会

(先端物理学・宇宙地球科学輪講)

【日時】 10月23日(金) 14:40~16:10

【場所】 大阪大学理学部本館D棟5階(D501)

【発表者】 佐々木晶(宇宙地球科学専攻)

【タイトル】 小天体探査から探る太陽系の進化

太陽系小天体とは、小惑星、彗星、太陽系外縁天体(カイパーベルト天体)、衛星などの総称である。小天体には過去の太陽系進化の歴史が残っており、探査機による観測やサンプル回収により、新しい知見が得られている。

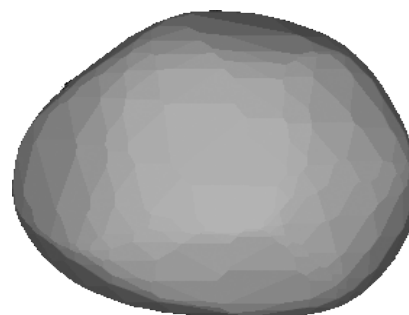
はやぶさ(小惑星)、かぐや(月)計画の成功により、日本は太陽系探査で、重要な役割を果たしはじめている。はやぶさは、大きさ数100mの天体イトカワの、変化に富む姿を明らかにした。昨年打ち上げられたはやぶさ2は、有機物や含水鉱物が存在すると考えられている小惑星1999JU3 (リュウグウ)からサンプルを回収する。また、火星の衛星フォボスのサンプル回収計画も動きだしている。

イトカワ



535 × 294 × 209 m

1999JU3(リュウグウ)



870m

物理談話会(先端物理学・宇宙地球科学輪講)

<http://www.phys.sci.osaka-u.ac.jp/ja/grad/rinkou.html>